

# 信州大学における認証システムと 次世代学認への要望

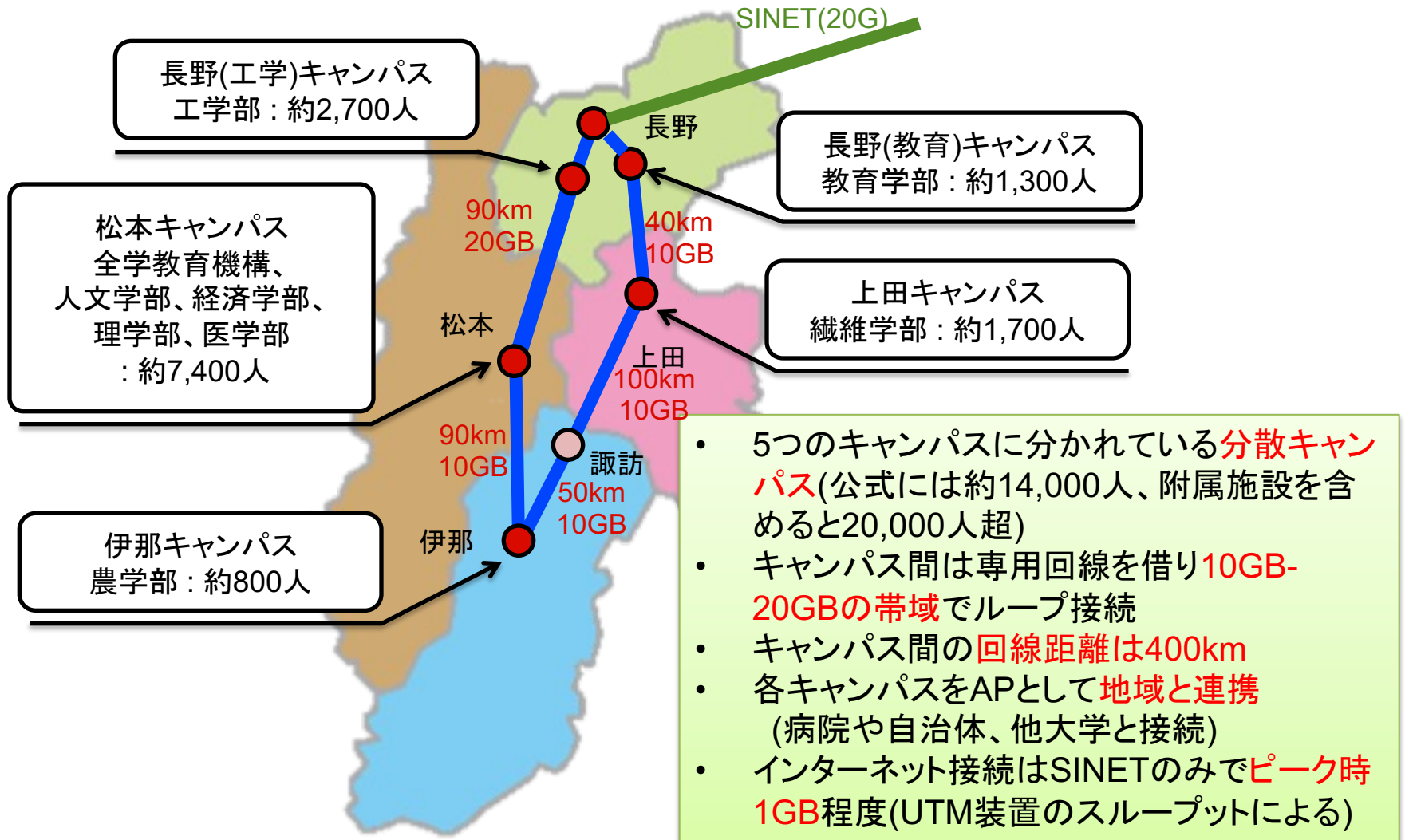
2022年12月13日 (火) AXIES 2022 9:00~10:30 13AM1A  
教育研究機関におけるオンラインによる本人確認と認証機能強化の実現に向けて

鈴木彦文

(信州大学総合情報センター 副センター長 准教授)



# 1. 信州大学紹介：分散キャンパスとネットワーク



## 2. Sustainability を実現する情報基盤システムと認証

継続的な運用システムを見据えた認証システムと  
サービスシステムの構築を行う

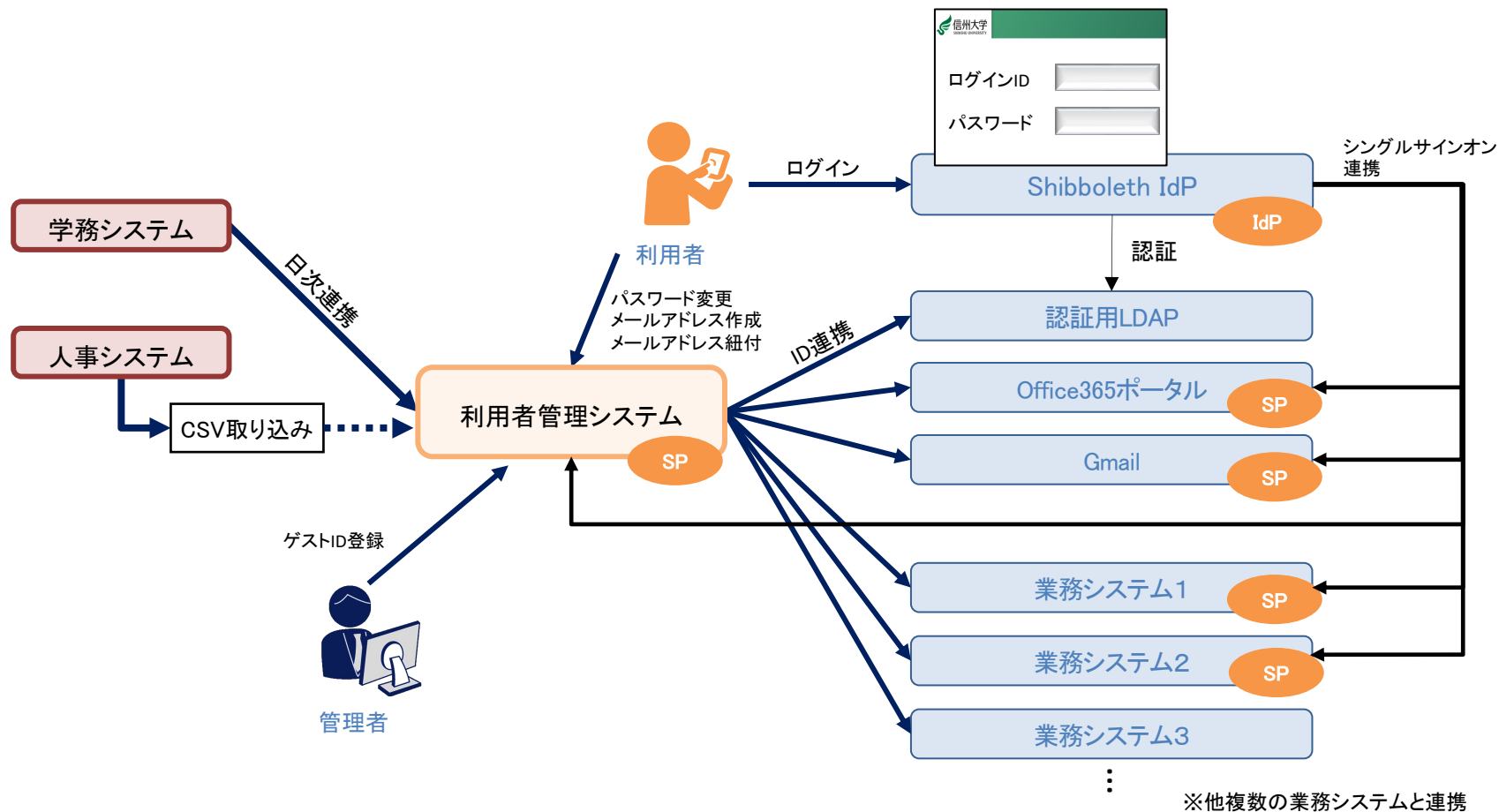
- 全てのシステムを SP 化する
- 全てのシステムで認証フローを統一する
- 異なるドメインの ID を制御可能にする
- 同一目的の異なる認証システムを減らす(トラストな ID とトラストでない ID で別のシステムを構築しない)

### 3. 情報基盤システムにおける統合認証

- ユーザ情報について、取得・配布(ID連携)・認証を統合的に扱うシステムを「**利用者管理システム**」として構築
- Shibboleth によるシングルサインオン環境を構築することで、連携するサービスを SP 化することで、**どのSPからでも同様の認証**方法を提供(他の SP へ移動しても再認証不要)
- 認証の Shibboleth 化に伴い、**ユーザ情報を大幅に整理**(属性情報、大区分・小区分による制御の確立)
- Shibboleth IdP を一元化することで **Shibboleth IdP の乱立を防止**(その他様々な認証システムにおいても可能な限り一元化・単純化を図る)

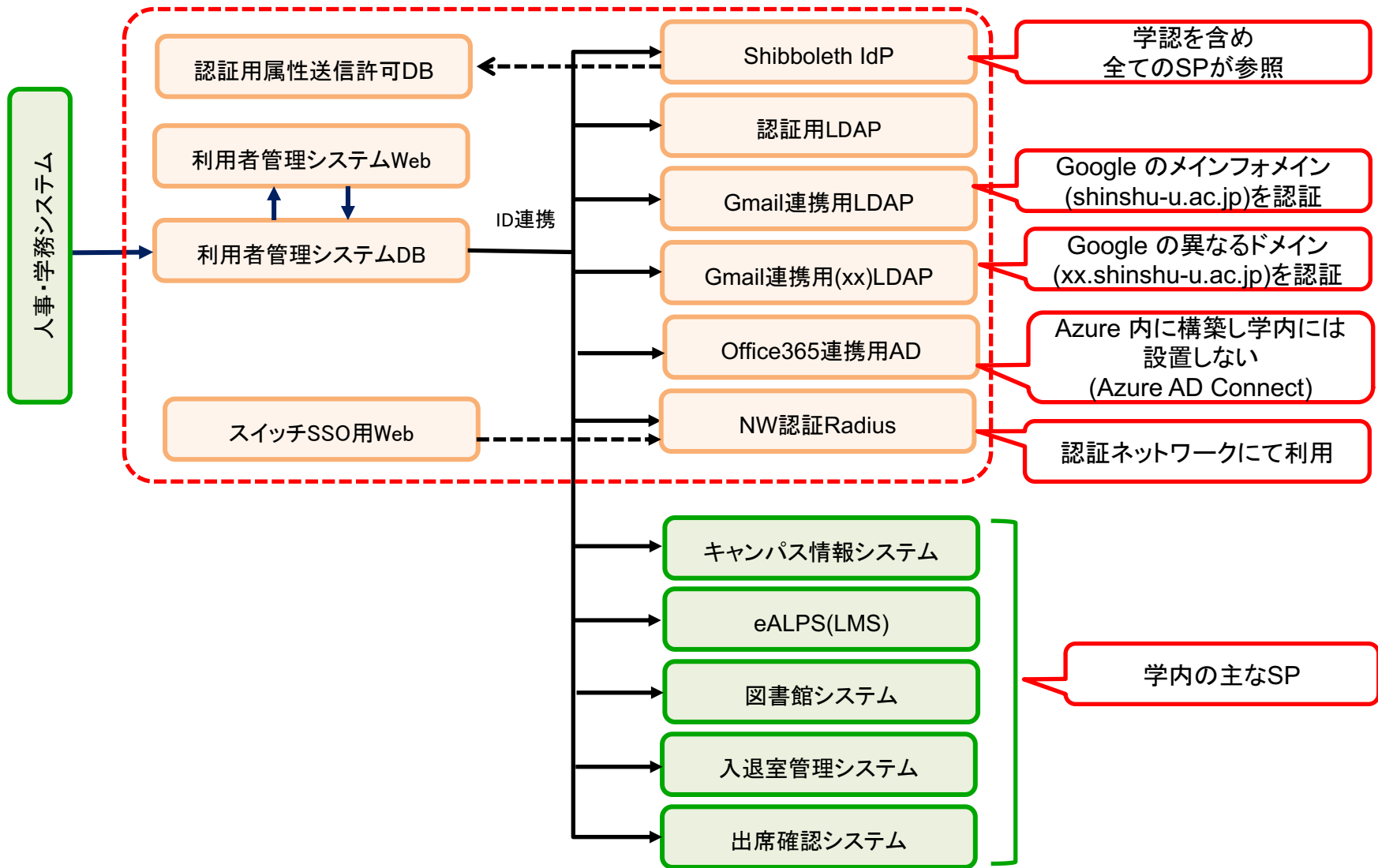
# 4. 利用者管理システムを中核とする認証

利用者管理システムにて利用者(ユーザ情報)の取得と集中管理を実現



信州大学 2020年 情報基盤システム完成図書より抜粋

# 5. 利用者管理システムのID連携フロー



## 6. おわりに – 次期学認に対する要望

- SP のさらなる拡充
  - XaaS 系サービスとの連携
    - ⇒ 大学情報システムの基盤系を設計する際に視野に入れられる
- 学認用 IdP のホスティング
  - 各大学で独自に構築すると構築・管理が重い
- 業務用で利用するアカウント≠メールアドレス
  - 紐付けは行っている
  - 学認でサービスを受ける際に支障はないか？